



平成27年3月18日（水）
愛知県健康福祉部保健医療局健康対策課
インフルエンザ対策グループ
担当 奥田・小島 内線 3160・3245
(ダイヤルイン) 052-954-6272

愛知県域の“インフルエンザ警報”を解除しました

1 概要

健康福祉部保健医療局健康対策課は、平成27年1月6日（火）に「インフルエンザ警報」を発令していましたが、平成27年第11週（3月9日（月）から3月15日（日）まで）の一定点医療機関当たりのインフルエンザ患者の報告数^注が、すべての保健所管内において警報継続基準値である「10」を下回ったことから、インフルエンザ警報を解除しました。

「インフルエンザ警報」が解除され、患者報告数も減少してきていますが、今後も、手洗い・マスクの着用・咳エチケットなどの予防対策を実施し、インフルエンザ予防を心がけてください。

小児や高齢者等で急激な発熱、咳、咽頭痛、関節痛などインフルエンザの症状がみられた場合には、早めに医療機関を受診してください。

注) 一定点医療機関当たりの患者数：

一定点医療機関からの一週間の総患者数÷定点医療機関数（県内195定点）

2 今シーズンのインフルエンザの特徴

(1) 今シーズンは例年よりやや早い11月下旬から流行が始まり、注意報や警報の発令に関しても、昨年や一昨年に比べると2週間程度早いものとなりました。

今シーズンの一定点医療機関当たりの報告数のピーク（最高値）は、平成27年第4週（平成27年1月19日（月）から1月25日（日）まで）の60.98と昨シーズンのピーク時の報告数38.05及び過去7年間（インフルエンザ（H1N1）2009が流行した平成21年／22シーズンを除く）のピーク時における報告数の平均41.69を上回っています。

また、今シーズンの学校等における集団かぜによる休校や学年・学級閉鎖等の措置施設数やその施設の患者数の累計も、昨シーズンの同時期を上回っています。

(2) 今シーズンのこれまでのウイルスサーベイランス^注の結果によれば、A香港型とB型が確認されています。

注) 流行しているインフルエンザウイルスの型・亜型及びインフルエンザウイルスの抗原性、抗インフルエンザウイルス薬への感受性等を調べ、病原性の変化の把握や診断・治療方針の見直し等に役立てるために実施している発生動向調査。

本県（名古屋市を除く。）では、県内の医療機関のうち30か所を定点として実施しており、今シーズンは、これまでにA香港型ウイルスが39件、B型ウイルスが1件分離されている。

3 過去の注意報・警報等の発令状況等

シーズン	流行入り	注意報発令	警報発令	警報解除	過去7年の一定点医療機関当たりの患者数累計（流行入り～警報解除）
H20/21	第49週（12月1日～12月7日）	H20.12.11	H21.1.22	H21.4.16	255
H21/22	第33週（8月10日～8月16日）	H21.9.28	H21.10.8	H22.2.17	578
H22/23	第51週（12月20日～12月26日）	H23.1.19	H23.1.26	H23.4.27	367
H23/24	第48週（11月28日～12月4日）	H23.12.7	H23.12.21	H24.4.11	364
H24/25	第51週（12月17日～12月23日）	H25.1.8	H25.1.16	H25.4.17	362
H25/26	第51週（12月16日～12月22日）	H26.1.9	H26.1.22	H26.4.30	329
H26/27	第48週（11月24日～11月30日）	H26.12.24	H27.1.6	H27.3.18	347

流行入りの基準：県内全域で「一定点医療機関当たり1」を上回った場合

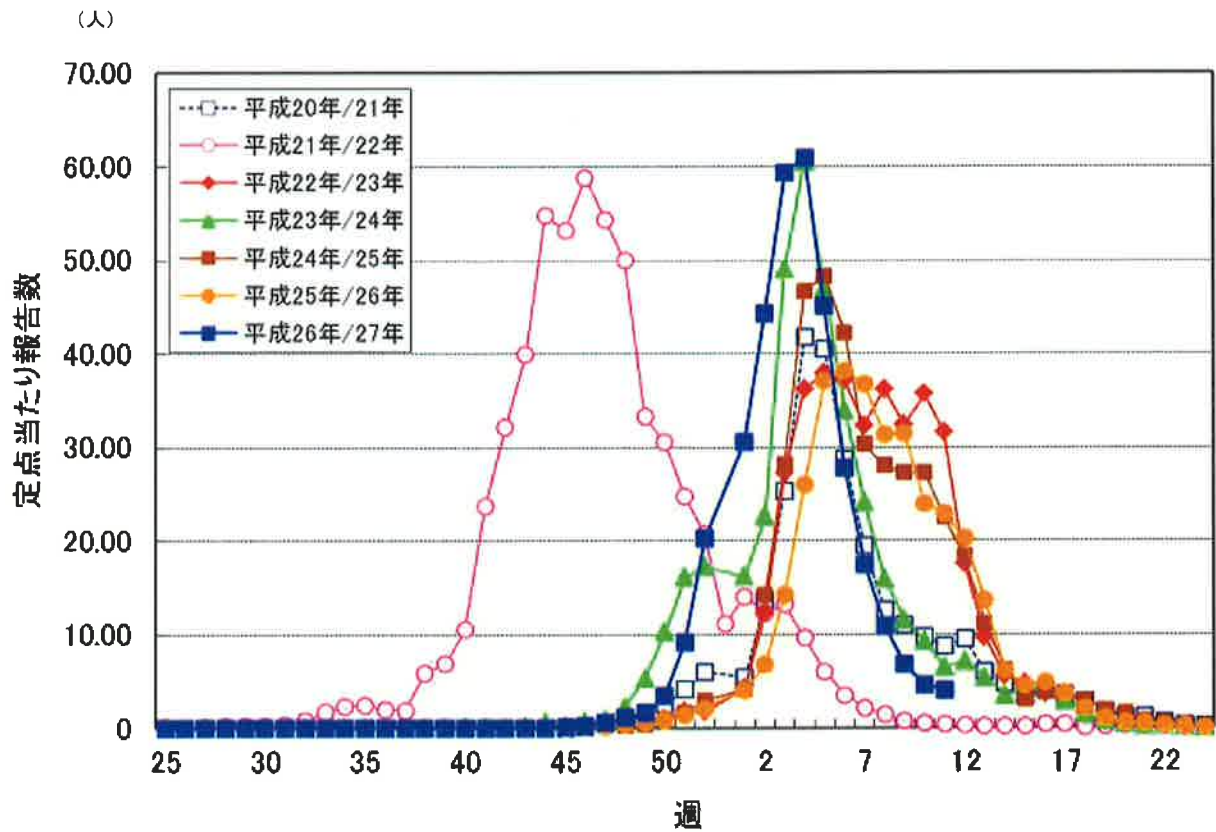
注意報発令の基準：一以上の保健所管内で「一定点医療機関当たり10」を上回った場合

警報発令の基準：一以上の保健所管内で「一定点医療機関当たり30」を上回った場合

警報解除の基準：全ての保健所管内で「一定点医療機関当たり10」を下回った場合

< 資料 >

感染症発生動向調査によるインフルエンザの発生状況（愛知県）



過去7年の一定点医療機関当たりの患者数累計（流行入り～警報解除）

